



やまなし サイエンスラボ

山梨の産業の活性化や県民生活の
向上を目指す試験研究機関の紹介

vol. ③ 高冷地野菜・花き振興センター



「ピラミッドアジサイ」

新品種に高まる期待

総合農業技術センターの支所である高冷地野菜・花き振興センターでは、山梨の花き産地の維持強化を図るため、他産地との差別化を図るオリジナル性の高い花きとして「ピラミッドアジサイ」の新品種開発の研究に取り組んでいます。

ピラミッドアジサイに 山梨の花き産地の可能性 を見つける

山梨県農事試験場（明治33年創立）を前身とする山梨県総合農業技術センターの支所である高冷地野菜・花き振興センターには、花き応用育種科と野菜作物科があり、地域の特性に合わせた花き・野菜作物などの品種育成や栽培試験を行っています。

私が所属する花き・応用育種科では、県内産地の育成のため、新品種開発や栽培技術の開発などを行うとともに、種苗生産にも取り組んでいます。

センターでは、新たなオリジナリティーのある商材の導入を目指し、10年ほど前にアジサイの仲間である円すい形



高冷地野菜・花き振興センター
花き・応用育種科
穴澤 拓末 研究員

の花が特徴的な「ピラミッドアジサイ」に着目しました。一般的なアジサイは前年の枝に花が付くのに対し、ピラミッドアジサイは新しい枝に花を付けます。

その性質を利用し、100日程度で鉢花の商品化が可能となる短期栽培技術を開発しました。平成24年には生産者グループ「ピラミッドアジサイ研究会」が設立され、少しずつ出荷量が増えていきます。需要期に合わせた開花時期の調節やサイズ展開など課題もありますが、生産者と一緒に試行錯誤を重ねることで、今では市場でも注目されるようになりました。今後は花形が富士山にも似ていることから、東京オリンピックパラリンピックのような、山梨もしくは日本をPRする場面における活用も期待されます。



試行錯誤の連続ですが
ピラミッドアジサイを
山梨のブランドにしたいです

石原園芸
石原 玄太 さん

何か新しいものを取り入れてみたいと考えていたときに、センターからピラミッドアジサイの栽培を勧められ、5年前から苗を導入し、生産を始めました。花持ちがいいため長く観賞でき、秋ごろまで出荷できることにも魅力を感じました。

4年前から出荷を開始し、今年は1万鉢の生産を実現しましたが、まだまだ試行錯誤の連続です。私たち生産者の技術とセンターの研究成果を合わせて、ピラミッドアジサイを山梨のブランド花きとして根付かせていきたいです。



センターの試験圃場の様子(左上)
開発中のピラミッドアジサイの新品種。平成30年度には市場に出回る予定(右・左下)



県の普及指導員が定期的に生産者を訪問。農場の現状を見たり、生産者の相談を受けたりしている。普及指導員は生産者とセンターの橋渡しの役割を担っている

高冷地野菜・花き振興センター



【問い合わせ先】

住所:北杜市明野町浅尾2496

TEL:0551-25-6201 FAX:0551-25-4503

山梨 花き振興センター

検索

こうした人気の上昇とともに他県での生産量も増えてきています。そこで当センターでは他産地との差別化を図るため、さらなるオリジナリティーを追

求した新品種の開発に取り組んでいます。当初は短期栽培法による鉢花生産が導入のきっかけでしたが、切り花需要の高まりを受けて、現在では鉢花と切り花両方の生産が行われています。紅く色変わりをしたピラミッドアジサイはアンティークアジサイとも呼ばれ、ドライフラワーとしても人気が高く、首都圏を中心に需要が伸びています。

本県の花き産地では、高い技術を持つ生産者により、良質な花きが生産されています。山梨の花き産地の維持強化を図るためにも、ピラミッドアジサイの生産基盤を確立していきたいです。

ピラミッドアジサイは、夏に白い花を咲かせ秋には紅く色づくため、長い間花を楽しめるという特長があります。当初は短期栽培法による鉢花生産が導入のきっかけでしたが、切り花需要の高まりを受けて、現在では鉢花と切り花両方の生産が行われています。紅く色変わりをしたピラミッドアジサイはアンティークアジサイとも呼ばれ、ドライフラワーとしても人気が高く、首都圏を中心に需要が伸びています。



ピラミッドアジサイのドライフラワー。アンティークカラーが人気

求した新品種の開発に取り組んでいます。当初は短期栽培法による鉢花生産が導入のきっかけでしたが、切り花需要の高まりを受けて、現在では鉢花と切り花両方の生産が行われています。紅く色変わりをしたピラミッドアジサイはアンティークアジサイとも呼ばれ、ドライフラワーとしても人気が高く、首都圏を中心に需要が伸びています。